



岐阜高専通信は＜結び目＞をテーマに岐阜高専にまつわるトピックを幅広く取り上げるメディアです。学園生活の中の些細な、でも楽しいこと、面白いことやクリエイティブな活動など。学生や教職員の個性などを様々な視点で切り取り、読者の方達にお伝えします。リラックスして楽しんでいただけたら幸いです。

編集長

Series

キャンパスの不思議探訪

図書館前の謎のオブジェ

これって何？を調べる

私たちが毎日過ごしている岐阜高専のキャンパスには「これは何だろう？」「誰がどのように使っているのだろうか？」と思う物があります。このコーナーではそんな疑問をひとつずつ調べていきたいと思います。

図書館の前庭にあるアレ？

1 回目は図書館南の言ノ葉テラス横にあるコンクリートの箱のようなものです。地下への入口にも、換気口にも見えますがこちらは一体何なのでしょう。

換気塔？

答えを探すため、まずは図書館南の図面を確認したところ、「換気塔」と記載がありました。このコンクリートの箱は換気塔になっているようです。では、どこを換気しているのでしょうか。施設係の加納さんにお尋ねしました。

岐阜高専のライフライン

この換気塔は岐阜高専の暖房がボイラー式であったことからボイラーの通気用として作られたものだそうです。換気塔の中を覗くと地下に配管が通っており、テクノセンターの東にあるボイラー室までつながっているとのことでした。現在岐阜高専ではボイラー式暖房は使用されていませんが、この地下通路にはネットワークや電気など様々なライフラインが通り、いわば高専の大動脈となっています。地面の中から私たちの学校生活を支えてくれている大切な施設の一部であることがわかりました。

鬼頭



黒いトンボの正体を探る

珍しいけど、珍しくない？ 黒いトンボ

初夏の頃から秋のはじめにかけて、学校の中を飛び回っている黒いトンボ、見覚えがあるでしょうか？私が岐阜高専に赴任した最初の夏にこの黒いトンボがたくさん飛び回るのを見て少し、不気味な気がしたのを覚えています。このトンボ、トンボなのにひらひらとゆっくり飛びます。また、よく見てみるとメタリックグリーンの胴体の個体と黒っぽい胴体の個体がいます。不思議なことにこのトンボのことを周りの人に話すと「どこにでもいる。珍しくないよ。」という人と、「珍しいよね。高専で初めて見た。」という人がいます。色が違うのは種類が違うのか、それとも同じ種類なのか、珍しいのか、珍しくないのか。色々謎がある一体このトンボは何者なのだろう。そこで色々調べてみました。

黒いトンボの正体

このトンボはカワトンボ科のハグロトンボでした。

原始的なトンボで、ゆっくりとした流れの川と川に接した森や林がある環境に棲息しています。初夏に羽化すると川のそばで数日を過ごしたあと、隣接する森や林の中に入っていき、そこで過ごした後、また川に戻ってきて産卵するようです。元々広く分布しており、特別珍しいトンボではないらしいのですが、現在は開発などによる環境の変化で棲息場所が激減しているようです。どうもこのハグロトンボが棲息するのは川に森や林が隣接している環境で、また飛行能力が高くなく広範囲を移動しないため、ハグロトンボの棲息環境が身近にあった人にとっては見慣れた存在だけど、そうでない人は目にする機会がないというのが真相のようです。また、メタリックグリーンの胴体の個体はオスで黒、または褐色の胴体の個体はメスでどちらも同じハグロトンボでした。

ビオトープとしての岐阜高専キャンパス

ハグロトンボは森や林の薄暗い場所を好みます。糸貫川に隣接して、複数の建物が建ち、また大小様々な木々が育つ岐阜高専のキャンパスはハグロトンボにとっては魅力的な森なのかもしれません。環境都市工学科の技術職員でビオトープ管理士の資格を持つ山川さんは「本来、ビオトープというのは人間の手が入っていない完結した生態系を持っている環境を指しているのだけど、岐阜高専と（その周りの）環境はハグロトンボを含めた色々な生き物が暮らすビオトープといってよいと思います。」と話します。

もう一つ、色々調べている中でわかったことなのですが、黒いトンボは幸せをもたらすとてもとても縁起のいい生き物なのだそうです。今までちょっと不気味と思っていた黒いトンボがとても可愛い昆虫だと思うようになってきました。

今田



時を超える～タイムカプセル顛末

50年前に埋めたタイムカプセル

タイムカプセルは、小学校などで生徒たちの作文や未来の自分に宛てた手紙、絵などを入れて校庭の地面の下に埋めておき、時間が経ったら、一定の期間を経て掘り出そうというものです。もしかしたら小学校や中学校で体験したことがある人もいるかもしれません。我が岐阜高専でもかつて埋められたタイムカプセルが今年になって掘り出されました。このタイムカプセル、52年ほど前に機械工学科の8期生が埋めたものだそうです。タイムカプセル発掘に関わった機械工学科の山田実先生に伺ったところ、タイムカプセルを掘り出すまでに様々な紆余曲折があった模様。そこで機械工学科8期生によるタイムカプセル埋設、発掘の顛末を特集することにしました。

タイムカプセルを埋める。

事の発端は52年前、当時の機械工学科の4年生か5年生から高専祭のイベントとしてタイムカプセルを作って埋めようという企画が持ち上がりました。機械工学科8期生だけでなく全クラスに呼びかけて希望があった10クラスくらいからの品がタイムカプセルに収められたそうです。

52年後

こうしてタイムカプセルが埋められて51年の時を経た昨年2023年5月の機械工学科の同窓会である機巢会の総会でこのタイムカプセルの掘り出しについて提案があり、8期生全員に対してメール、郵便、電話を駆使してタイムカプセルの掘り出しについて賛否を伺った結果、大多数が賛成で、8期生が70歳を迎える2024年に発掘しようということになりました。埋められて52年、この52年という年月はタイムカプセルのスパンとしてはとても長いです。調べたところ、タイムカプセルを掘り出すまでの期間は10年、長くて20年ほどが一般的なようです。もし、今年埋めたとしたら52年後は2076年。世界は今と大きく変わり、想像もつかない様々な技術を元にしたプロダクトが使われているでしょう。

タイムカプセルを探す

そんな50年の時を経て、掘り出されることになったタイムカプセルですが、実は埋められた場所を特定するのにとても苦労されたようです。体育館の北側で武道場にあるフェンスの盛り土あたりで、土被り（タイムカプセル上面から地表30～50cm程度の深さに埋めた。形状と材質は円筒形で高さ100cm以下、直径は70～80cm程度、材質はステンレスもしくはアルミニウムという8期生の方たちの記憶を元に最初は測量用ピンを使って探し、次にダウジングという方法でも探してみても絞り込んだツルハシやスコップ、鍬を使って候補地を幅約2m、長さ8mにわたって掘りましたが、見つかりませんでした。そこで今度は金属探知機を使って探すこととなりましたが、金属探知機による探査でもタイムカプセルの大きさに見合う反応はありませんでした。学校側との相談の結果、地下には電気配線や配管などが埋まっているので業者に依頼して手掘りで探そうということになったそうです。その発掘の打ち合わせのため、業者



に連絡したところ、なんと数年前に高圧ケーブルの埋設工事を行った際にタイムカプセルらしきものを掘り当て、その後、元の場所に埋め戻したということが情報としてもたらされました。この情報で苦労して探しても分からなかったタイムカプセルを埋めた場所が突然わかりました。

タイムカプセルを掘り出す

2024年の8月19日に20名程の卒業生も駆けつけ、見守る中で、機械工学科8期生のタイムカプセルが掘り出されました。タイムカプセルを掘り出した時に中に雨水が染み込んで絵や文章が滲んでしまったり、劣化が進んだりということがよくあるみたいですが、今回の掘り出しに立ち会った堅田・樋口両記者は「タイムカプセルの内側に貼られたステッカーが、昨日貼ったものであるかのように状態が良く、中身が全く劣化していないということが瞬時的に理解できて印象的でした。タイムカプセル本体そのものも、高専生の高い技術力が感じられる点が多く、かっこいいなと思いました。」（堅田記者）、「とても52年前のものとは思えないような綺麗な状態の模型や手紙が出てきて、その状態を保てるタイムカプセルを作り上げた技術や情熱に胸が熱くなりました。」（樋口記者）とその時の印象を語っています。物だけでなく、文字通り、当時の空気ごとカプセルの中に保存されていたことが両記者のコメントからわかります。

高専祭で52年前に出会おう

この時に掘り出されたタイムカプセルとそこに収められた品々は10月26日、27日に行われる高専祭で展示される予定です。場所は第2体育館、52年の時を経て掘り出されたタイムカプセル。皆さんも見たいと思いませんか。

タイムカプセルの高専祭での展示の様子も改めて続報する予定です。 （文責：今田 取材：堅田、樋口）